魅力ある授業のために(単元化例) 文学国語 書くこと

1 単元の目標

- (1) 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解することができる。〔知識及び技能〕 (1)ア
- (2) 文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にすることができる。[思考力、判断力、表現力] A(1)ア
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。「学びに向かう力、人間性等」

2 指導と評価の計画

自身の内面を表現した詩を創作する。

| 科目 | 名 文学国語 | 学年類型 | 2年 | 単位数 | 4. | 単位 | | 話すこと 聞くこと | |
|---------------------------------|---|--|--|---|------------------|------------------|-----|-------------------------|------|
| 単元 | 単元名 自分の内面を詩に表現しよう (茨木のり子「わたしが一番きれいだったとき | | | | き」) | | | 書くこと 読むこと | 0 |
| | 単元の評価規準 | | | | | | | | |
| 知識・技能 思考・判断・表現 | | | | 主 | 主体的に学習に取り組む態度 | | | | |
| 言葉には、想像や心情を豊かにす「書くこと」において、文学的な文 | | | | 文 詩を | 詩を創作する活動を通して、積極的 | | | | |
| る働き | きがあることを理解してい | 章を書くた | めに、選ん | んだ題材に | 応に自 | に自身を内省したり、思考を整理し | | | |
| る。 | | | | | | たりしながら、自らの学習を調整し | | | |
| | たいことを明確にしている。(A書 くこと(1)ア) | | | | 書 よう | ようとしている。 | | | |
| | | 主 | たる言語 | 舌動 | | | | | |
| | 自: | 身の内面を表 | 現した詩 | を創作する | 活動。 | | | | |
| 時間 | 哲学のわた | い、主たる学 | 羽迁新 | | 重 | 点項 | 目 | 評価方法 | |
| 时间 | 授業のねらい・主たる学習活動 | | | 知 | 思 | 態 | 計加力 | 厶 | |
| | 「詩」を書く目的と特徴を考える。 | | | | | | | 57\+\ <i>o.th</i> c | जा . |
| 1 | | | | | | | | ・記述の確認 (ワークシート) | |
| | ②何のために詩を書くかを考える。 | | | | | | | | |
| | ③詩 (韻文) と散文の違いを | 話し合い、詩の | の性がティ | ハンマゼミ | Z | | | | |
| | | нон н | ク 特徴にう | いし考える | 2) ° | | | | |
| | 「わたしが一番きれいだった | ことき」を読み | 、作者が | なぜこの詩 | を | | | | |
| | つくったのかを考え、詩には | ことき」を読み | 、作者が | なぜこの詩 | を | | | | |
| | つくったのかを考え、詩には きがあることを知る。 | ことき」を読み | 、作者が | なぜこの詩 | を | | | | |
| | つくったのかを考え、詩には きがあることを知る。 ④ペアで詩の読解をする。 | ことき」を読み は作者自身の内 | ・、作者が 引面の葛藤 | なぜこの詩 を昇華する | を | | | | |
| | つくったのかを考え、詩にはきがあることを知る。 ④ペアで詩の読解をする。 ⑤グループで、なぜこのよう | さとき」を読み は作者自身の内 うな詩をつくっ | ・、作者が 引面の葛藤 | なぜこの詩 を昇華する | を | | | | zi. |
| 2 | つくったのかを考え、詩には きがあることを知る。 ④ペアで詩の読解をする。 | さとき」を読み は作者自身の内 うな詩をつくっ | ・、作者が 引面の葛藤 | なぜこの詩 を昇華する | を 働 | | | 記述の確認 | _ |
| 2 | つくったのかを考え、詩にはきがあることを知る。 ④ペアで詩の読解をする。 ⑤グループで、なぜこのよう ⑥グループでの意見をクラス | さとき」を読み は作者自身の内 うな詩をつくっ くで共有する。 | ・、作者が I面の葛藤 ったのかを | なぜこの詩 を昇華する 考える。 | を 働 | | | ・記述の確認 (ワークシー | _ |
| 2 | つくったのかを考え、詩にはきがあることを知る。 ④ペアで詩の読解をする。 ⑤グループで、なぜこのよう ⑥グループでの意見をクラス (※読者に自分の考えを伝え | さとき」を読み は作者自身の内 な詩をつくっ くで共有する。 | 、作者が 画面の葛藤 ったのかを 二創作する | なぜこの詩 を昇華する 考える。 のではなく | を 働 | | | | _ |
| 2 | つくったのかを考え、詩にはきがあることを知る。 ④ペアで詩の読解をする。 ⑤グループで、なぜこのよう ⑥グループでの意見をクラス (※読者に自分の考えを伝え 創作を通じて作者の内面の | とき」を読み は作者自身の内 かな詩をつくっ なで共有する。 えるためだけに 葛藤などが整 | 、作者が 画面の葛藤 たのかを 全創作する 理されう | なぜこの詩 を昇華する 考える。 のではなく ることを感 | を働 | | | | _ |
| 2 | つくったのかを考え、詩にはきがあることを知る。 ④ペアで詩の読解をする。 ⑤グループで、なぜこのよう ⑥グループでの意見をクラス (※読者に自分の考えを伝え 創作を通じて作者の内面の させたい。読者に何か伝える | とき」を読み は作者自身の内 な詩をつくっ くで共有する。 えるためだけに 葛藤などが整 らという目的以 | 、作者が 画面の葛藤 たのかを 創作する 理されも詩 | なぜこの詩 を昇華する。 考える。 のこつ なをる を る | を 働 | | | | _ |
| 2 | つくったのかを考え、詩にはきがあることを知る。 ④ペアで詩の読解をする。 ⑤グループで、なぜこのよう ⑥グループでの意見をクラス (※読者に自分の考えを伝え 創作を通じて作者の内面の | とき」を読み は作者自身の内 な詩をつくっ くで共有する。 えるためだけに 葛藤などが整 らという目的以 | 、作者が 画面の葛藤 たのかを 創作する 理されも詩 | なぜこの詩 を昇華する。 考える。 のこつ なをる を る | を 働 | | | | _ |

| 3 | ⑦これまでの体験や現在の自身を振り返り、詩に表現することを | | | | |
|-----|-------------------------------|---|------------|------------|----------|
| • | 検討し、構想メモをつくる。自身に限らず、人物を想定してその | | | | ・記述の分析 |
| 4 | 内面についても表現してもよいことを確認する。 | | \bigcirc | \bigcirc | (ワークシート、 |
| • | ⑧構想メモを基にして、詩の創作をする。 | | | | 振り返りシート) |
| 5 | ⑨詩の創作を通じて、自身の内面を整理したり、葛藤を昇華した | | | | |
| | りできたかを振り返りシートに記入する。 | | | | |
| 定期考 | 查 | 0 | | | |

[※]重点項目について、「◎」は総括の資料とするもの、「○」は、総括の資料とせず、不満足な場合は何らかの指導を行う。

3 思考・判断・表現のルーブリック

| 観点 | 評価A | 評価B | 評価C |
|--------|--------------|---------------|--------------|
| 文学的な文章 | 自身の内面を深く省察する | 自身の内面を省察するとと | 自身の内面を省察し、詩を |
| を書くため | とともに、詩に表現する内 | もに、詩に表現する内容を | 創作している。 |
| に、選んだ題 | 容をよく整理し、詩を創作 | 整理し、詩を創作している。 | |
| 材に応じて情 | している。 | | |
| 報を収集、整 | | | |
| 理して、表現 | | | |
| したいことを | | | |
| 明確にしてい | | | |
| る。 | | | |

4 主体的に学習に取り組む態度のルーブリック

| 観点 | 評価A | 評価B | 評価C |
|--------|--------------|--------------|-------------|
| 積極的に自身 | 積極的に自身の内面を省察 | 積極的に自身の内面を省察 | 積極的に自身の内面を省 |
| を内省した | するとともに、創作する中 | するとともに、創作をする | 察している。 |
| り、思考を整 | で新たに気付いたことを粘 | 中で気付いたことを記述し | |
| 理したりしな | り強く記述し続けている。 | ている。 | |
| がら、自らの | | | |
| 学習を調整し | | | |
| ようとしてい | | | |
| る。 | | | |